

## 指定管理者評価シート

### 一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市縄文の森広場
2	指定管理者	(公財) 仙台市市民文化事業団
3	指定期間	平成24年4月1日～平成29年3月31日
4	施設の利用状況	《利用者数》 31,690人 (前年度比 104.9%) 平成26年度30,204人 平成25年度31,469人 平成24年度29,089人
		《事業》 展示事業：常設展 (山田上ノ台遺跡の展示及び野外展示) 企画展4回 (年間テーマ「縄文人の暮らし」) 研究・調査事業、普及啓発事業：縄文体験、発掘体験、講座、イベント
5	収支の状況	《費用》 ( )は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 61,288千円 ( 56,358千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 ( 0千円)
		《収入》 ・ 使用料収入 703千円 ( 682千円) ・ その他収入 1,998千円 ( 2,084千円)
6	利用者の声	《実施状況》 平成27年12月に施設利用者アンケート調査。 小・中学校・町内会等の代表者の出席による運営懇談会を2回開催。

### 二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野		所見	評価
I	総則	施設の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針が確立されており、職員が十分理解している。また、資料の保管、調査・研究、展示・普及啓発事業等とおして、本市の縄文時代を中心とした文化財の保護、歴史文化の普及啓発と向上等の施設目的を達成している。	S
II	施設の運営管理体制	職員の勤務実績及び配置状況は適切であり、開館及び指定管理料の執行状況等も適正である。また、個人情報の保護や情報セキュリティ対策も十分である。事故防止等については、対応マニュアルの作成し、チェックリスト等を用いた安全性やサービス内容等のチェック、ミーティング等により、情報の共有化を図っている。	S
III	施設・設備の維持管理	建物や設備、備品が適切に管理され安全性が確保されており、利用者が快適に利用できる状態が保持されている。また、仙台市環境行動計画に則り、省エネ・リサイクルに努めている。	S
IV	サービスの質の向上	職員の接客マナーや受付状況は良好であり、ホームページやパンフレット等による利用情報の積極的な提供や利用者アンケートも実施している。また、施設のサービス水準も確保されており、必要な研修への参加も行っている。苦情等があった場合には、対応策等について、その都度掲示するようし、利用者に公表している。	S
V	施設固有の基準	協定書や仕様書に基づき適切に施設を管理すると共に、事業計画書どおりに適切に事業を実施している。また、アウトリーチ事業も増加しており、学校や地域社会と良好な関係の維持及び発展にも貢献している。さらに、ボランティア会の活動も活発化しており、体験学習のサポートをしたり、まつりやコンサートを協働で実施するなど多岐にわたっている。また、これらの活動の様子については、ホームページなどで積極的に公開している。	S

### 三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み		取組み状況
1	学校教育との連携	学校教育との連携を事業の柱の一つとして位置づけ、本館である富沢遺跡保存館と連携して「利用学習事業」を実施しているが、平成27年度の利用学習の参加校は、31校(2,139人)であった(平成22年17校、平成23年16校、平成24年29校、平成25年33校、平成26年38校)。6学年の社会科及び総合的な学習を中心とした利用が活発で、学校教育との連携が推進した。また所長が山田中学校の学校評議員になっており、学校との連絡調整の機会とした。
2	市民協働の推進	利用学習時の体験活動や市民との交流を図るイベントなど、多様な場面で69名のボランティアスタッフが活動している(平成27年度実績:延1,332名・4,168時間)。体験活動のサポートに加え、事前の準備作業・体験活動中の安全確保などのほか、市民と館側との意思の疎通を図る役割も果たしている。
3	広報活動の推進	ホームページや各種印刷物(ハナちゃん通信・イベントのご案内・パンフレット等)等の様々な媒体を駆使してきめ細かい広報活動に努めている。また、平成25年度の運営懇談会の際、地域への広報の充実について提案があつて以来、山田鉤取地域、太白地域の各町内会へのパンフレット等の配布地域を拡大し、広報活動の充実を図っている。また、縄文まつりやコンサートの際は、近隣の小学校や施設に重点的に配布活動を行った。
加点評価		A

### 四 評価総括

《指定管理者（(公財) 仙台市民文化事業団）による自己評価》
<p>施設の管理運営に当たっては、施設所管課と協議を行いながら、協定書等に基づき適切に行った。また、ミュージアム施設として適切な調査研究、普及啓発、資料の保管等に努めたほか、より多くの方に利用いただけるよう年間を通して様々な事業を展開した。</p> <p>利用者数は31,690人であり、前年度より約5%増であった。今後は、事業の広報に係る多様な媒体の積極的活用、テーマを十分考慮した事業の実施、地域や学校との連携などにより、来館者層の拡大を図ることが必要である。</p> <p>当館の最大の特長である体験活動事業については、アンケート等により参加者から高い評価が得られた。これは、職員の努力のみならず、事前の準備作業、体験活動中の安全確保やサポートなど、多様な場面で69名のボランティアスタッフが活躍し、その協力が得られていることによるところが大きい。ただし繁忙期を中心として、受付業務や体験活動が混雑する場面がみられた。そのため、受付業務マニュアルの改善、対応スタッフの連携強化など、効率化に努めたものの、スタッフ配置などの適正化も含めた検討が、さらに必要と考える。</p> <p>また、季節ごとの祭りやコンサートなど市民との交流を図るイベントについては、例年盛況で地域の事業として定着していることが窺える。当財団の自主財源事業「縄文のまつり復元と創造プロジェクト」(平成20年度～)については、市民やボランティアと共に調査・研究と縄文楽器製作を継続して行い、3月の「縄文人の記憶の宴」(音の宴・躍の宴・炎の宴)に繋げた。さらに、富沢遺跡保存館との連携についても、合同ボランティア育成講座・互いの祭り開催時のイベントコーナー設置・企画展の連携・両館職員等の参加による専門研修・救命講習などを合同で実施し推進した。さらに、地域の市民まつりへの参加、地域施設間の連携事業を実施するなど、地域との連携事業も実施した。</p> <p>施設管理については、環境負荷の軽減を意識し、こまめな消灯・空調機器使用の見直しなどに努めており、より軽減を図ってきたい。今後は、調査・研究を踏まえた一層魅力的な企画と効果的なPRに努めるとともに、本館である富沢遺跡保存館をはじめ、SMMA(仙台・宮城ミュージアムアライアンス)及び歴史ミュージアムネットワーク諸館等との連携と役割分担を図りながら、先史遺跡の公開・活用施設である当館の更なる活用推進を図り、ミュージアム都市実現の一翼を担ってきたい。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》
<p>施設の運営管理に当たり、指定管理者は協定書等に基づき適切に運営を行っている。また親館である富沢遺跡保存館と連携して事業を推進するとともに、施設設置者である担当課と指定管理者・施設担当が市の事業推進や指定管理業務の課題解消について適宜調整を行い、協力して業務遂行に当たっている。</p> <p>入館者数は前年度に比べ増加している。体験学習については、類似施設と比べても豊富なメニューを誇るが、全種を体験し終えた利用者もあり、より魅力的な体験学習とするために、その内容について一度検討することが必要であろう。なお、体験学習参加者のアンケートからは、参加者が高い満足度を得ていることが窺える。展示については、物理的制約が非常に強いため、質は確保出来ても観覧者に量的満足感を与えにくいという宿命の問題がある。ミニ企画展というタイトルが過大な期待を与える可能性もあることから、ネーミングも含めた再検討を望まれるところである。継続して開催されている地域懇談会等の活動は、地区市民まつりや市民センターまつりに出展の要請が寄せられるなど、確実に地域に根を下ろしている。教員出身の職員を配置したことも、地域と密着した活動の展開に役立っている。こうした地域住民との良好な関係は、施設の継続的な維持活用に大いに資するものである。縄文の森の整備については、敷地周辺の景観環境の変化への対応策の検討や、広場内の植生種類の適正化に努めるなど、計画的に管理されている。本館である富沢遺跡保存館（地底の森ミュージアム）との連携については、物理的距離のため有機的連携が難しいが、より一層の工夫を期待したい。</p>

総合評価
S

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局生涯学習部文化財課